

# ショッパー Shoppers

お出掛けガイド  
名古屋から鳥取へ  
2020年春号

## 観光列車で巡る 春の鳥取

近年、鉄道会社各社の運行する「観光列車」が人気を博しています。鳥取県内では、2つの鉄道会社が一部の列車を観光列車として運行。そのどちらでも、1両編成の各駅停車です(一部条件付き)。ここでは、ゆっくりと流れる時間に、いつもとは違う時間の進度に身をゆだねたくなる、ローカル線の旅の愉楽が待っています。



1)あまつぼし 2)あまつぼしの車内 3)智頭急行[智頭]駅前の観光案内所でレンタルできるモビリティ 4)板井原集落 5)若桜鉄道「隼」駅近くにあるカフェ&ダイニングSanのグリルサンドセット(税込990円、ドリンク別) 6)若桜号 7)若桜鉄道の平田光男車掌

### 地元の星空をイメージした 智頭急行「あまつぼし」

鳥取県内を走る観光列車の1つは、智頭(ちず)急行が運行する「あまつぼし」。兵庫県赤穂郡上郡(かみごおり)町から鳥取県八頭(やず)郡智頭町までを結ぶ智頭線に、2018年3月から登場した観光列車です。

車両はというと、星に照らされた夜空のような青に、いくつもの星を描いた外観が目を引きまします。「天空の津(港)に集う、夜空の星たちを表現しているんです」とは、智頭急行運輸部の白井宏一さん。内装は、窓枠や天板などに智頭町をはじめ地元の木材がふんだんに使われ、文字通り木のぬくもりにあふれています。

兵庫、岡山、鳥取の3県を縦断する智頭急行は、地元住民の足としても欠かせない路線です。「あまつぼし」も定期列車として運行する場合がありますが、「貸切利用の予約も受け付けています」(白井さん)とのことなので、一度仲間に声を掛けてみませんか。

全部で14の駅のうち、鳥取県内にあるのはわずか3駅ながら、見どころは尽きません。江戸時代に宿場町として栄えた智頭駅周辺の町並み、同駅からは日本の原風景が残る板井原(いたいばら)

集落にも足が運べ(車で約10分)、お隣の恋山形駅はその駅名から恋が叶う駅といわれています。沿線5市町村の花をイメージした柄のシートに座り、やがて滑るように走り出す「あまつぼし」。片道約56kmを1時間半ほどかけてのんびりと行く旅路に、胸が高鳴るはずですよ。

### 著名なデザイナーが手掛けた 若桜鉄道「昭和号」「八頭号」「若桜号」

鳥取県南東部の山間部に、若桜(わかさ)町という小さな町があります。隣接した八頭町にまたがる一帯は若桜谷(わかさだに)と呼ばれ、その間を縫うように単線で行くのは、ローカル線「若桜鉄道」。駅舎や橋など沿線の23施設は、1930(昭和5)年の開通当時の状態で残る国の登録有形文化財です。

智頭線よりも短い片道19・2km

の若桜鉄道は、時間にして約30分の距離を3台の観光列車が走っています。2018年に「昭和号」、翌年に「八頭号」の運行を開始し、今年「若桜号」が仲間入り(貸切可、要予約)。さらに先日、待望の行き違い施設が八東(はつとう)駅に完成しました。これにより、若桜鉄道が乗り入れているJR郡家(こおげ)駅〜終点の若桜駅の9駅間で運行本数が5往復増加、1日15往復となったことも付け加えておきます。

走行中、窓の外に広がるのは牧歌的な風景。手つかずの自然林、特産の梨や柿のフルーツ畑、桜の季節ならピンクの花景色…。ここは車窓越しに、鳥取の自然と向き合うとしましょう。

注目の車両は、JR九州の観光列車「ななつぼし」をデザインした工業デザイナー・水戸岡鋭治氏が手掛けています。「昭和号は青、八頭号は赤、若桜号は緑の外観で、どれもシックな色合い。木目調のレトロモダンな内装にマッチしているでしょう」と、若桜鉄道総務部の矢部雅彦さんも得意げ。聞けば、水戸岡氏は駅舎のデザインも手掛けたそうです。

古き良き…にならず一周回って新鮮な、観光列車を利用した鳥取の旅。車窓を流れる景色をただ眺めるもよし、貸し切りなら気の置けない仲間との会話も弾むことでしょう。もちろん、束の間の「鉄ちゃん」気分を味わうのもまた一興。



●アクセス●智頭急行「上郡」までは…JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR・智頭急行「上郡」/2時間10分  
若桜鉄道「郡家」までは…JR名古屋→(新幹線)→JR姫路→(スーパーはくと)→JR・若桜鉄道「郡家」/3時間10分  
※車…名古屋方面から→(名神・新名神高速→中国道)→佐用JCT→(鳥取自動車道)→智頭IC下車で智頭駅へ(約300km)、または河原IC下車で郡家駅へ(約320km)

**ふるさと鳥取県産業・観光センター**  
中区栄4-16-36 ☎052-262-5411  
久屋中白ビル5階  
https://www.pref.tottori.lg.jp/nagoya/